



写仏講座

豊山仏青では写仏講座を行っております。興味のある檀信徒さまがいらっしゃいましたら、是非ご案内ください。

平成29年

9月8日(金)
10月13日(金)
12月15日(金)

午後1時より宗務所にて

詳細につきましては豊山仏青ホームページをご覧ください。

また豊山仏青ホームページ、写仏講座の中の「写仏を体験してみよう」では、体験コーナーをご用意しております。なぞってみたり、お子さまの塗り絵としても、ご利用ください。

編集後記

暑さが日ごとに増してきましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。さて、四月より任期二年目を迎えた私たち執行部ですが、今年も豊山仏青六十周年という大事業に向けて現在奔走中でございます。今号では、今年、十一月に行われる六十周年事業の目玉である総本山長谷寺総登壇についても掲載致しました。皆様のお手元にも総登壇への参加申し込みのご案内が届いている頃かと存じますが、是非、ご参加頂き皆様のお力もお借りして豊山仏青六十周年のイベントを盛大なものに出来ればなと思っております。総登壇へのご参加お待ちしております。皆様どうぞ奮ってご応募下さい！

篠山昌弘

豊友

Buzanbussei Buyu

題字 田代弘興 猊下

第158号

<http://bussei.gr.jp/>



創立60周年

真言宗豊山派仏教青年会
創立六十周年記念誌

雲外蒼天



写仏講座・千響チャリティー演奏は

豊山仏青

検索



Facebook

www.facebook.com/buzanbussei/



豊友お問い合わせ先

info@bussei.gr.jp

豊友 第158号

平成29年6月23日発行

発行人 木村真弘

発行所 〒112-0012 東京都文京区大塚5丁目40番8号
真言宗豊山派宗務総合庁舎内 真言宗豊山派仏教青年会

デザイン・印刷 株式会社ディー・エイ・ティ・コーポレーション

東日本大震災七回忌法要 防災フォーラム

平成29年3月6日 明王山 宝仙寺

平成29年3月6日に、東京都中野区の明王山宝仙寺様を会場として、東日本大震災七回忌法要及び、防災フォーラムを行いました。東日本大震災の発生から6年の月日が流れ、豊山派仏教青年会では震災発生時より災害救援対策本部会議を立ち上げ、今日まで支援活動を行って参りました。本年は物故者の七回忌を迎えるにあたり、慰霊・鎮魂のための法要を行うと同時に、震災からの教訓を忘れないためにも有事の際の備えとして防災フォーラムを開催しました。

午前中に行われた防災フォーラムにおいては、講師に仏教Z(GO)ネットワーク防災プログラム担当である自覚大道先生をお招きして実際に今、大地震が発生し、寺院内に避難所を設営するという状況を仮定したワークショップを行いました。電気が使用できなくなった状況なども考慮し、部屋の電気を全て消して携帯電話のライトを使用しながらディスプレイカッションを行うなど、様々な課題が自覚先生から提出される中で、いかに寺院を避難所として機能させていくかという

目的に向けて参加者全員で真剣に話し合う大変貴重な経験となりました。

そして、午後からは参加者全員による東日本大震災によって尊い命を落とされた方々への慰霊・鎮魂のための法要が執り行われました。また、ご来寺された信徒の皆様からもご懇篤なるお焼香をいただきました。

今回の東日本大震災七回忌法要・防災フォーラムを通して私を感じたことは、震災によって亡くなられた方々への慰霊・鎮魂のご供養もとても大切なことですが、震災によって被災

された全ての方々の犠牲を決して無駄にしないためにも震災からの教訓をしっかり学び、今後起こりうる大地震に対して被害を最小限に抑えられるよう備えていく努力を続けていくことも亡くなられた方々への大切なご供養になるのではないかということです。

「備災」ということに関して真剣に取り組んでいかねばならないと気づかされる大変貴重な一日となりました。



新入生歓迎会

今年も、四月二十八日に大正大学にて新入生歓迎会が行われました。総勢三十三名の学生が新たに入学し、大変賑やかな歓迎会となりました。新入生一人一人が自分の目指す僧侶像というものをしっかりとっていて、一緒に話をしていると心強く感じました。これからの大学生活、楽しいことも辛いこともあると思いますが、一緒に入学した仲間と力を合わせて頑張っていって欲しいと思います。(種智院大学においては、今年度は新入生の入学がなかったため、歓迎会の催しはございませんでした。)

大正大学1年

茨城5号306番 医王寺 渡邊莉世
群馬中部21番 徳昌寺 三津田貴子
茨城1号3212番 乗蓮院 村山仁美



大正大学は創立九〇周年を迎えます。私たちは伝統と歴史ある本学で学べることを光栄に思います。政界など様々な場面での女性の活躍が目立つようになった社会で、私達も大学卒業後、立派な尼僧として地域に貢献していくにあたって抱負を述べたいと思います。

大学に入学して二ヶ月がたち、法儀研究の授業やゼミでお経や声明を学んでいます。女性であるということもあり男性の音程と違ってしまいがちで難しく感じることも多々あります。また、仏教界では、いまだに男性優位の考えが根強く残っていると感じます。このような状況を打開していくためにも私達がまず大正大学において仏教について深く学び、男性に負けないよう勉学に励んでいきたいと思っています。

ある寺院では姉弟で法事等のお経をお唱えし、その音色がとても心地良いと評判になっています。私は、読経だけでなく、男女の僧侶がいることによって、お檀家さんに対して男性としての悩み、そして女性としての悩み、それぞれの心に寄り添うことができると思います。私は、女性のお檀家さんの心を本当に理解するには尼僧の力も必要だと思います。そのためにも、宗務所や大学にも積極的に携わっていかなくてはならないと思っています。私達も今後、相手の心に寄り添えるよう精進していきたいと思っています。

最後になりましたが、寺院や僧侶の減少が取り沙汰されていますが、私達女性の活躍が、それらの問題を解決する一つの糸口になると信じています。



東大寺千僧法要

「花祭り千僧法要に参加して」

茨城3号251番金剛寺中 難波法俊

平成二十九年四月二十六日、東大寺大仏殿にて全日本仏教青年会主催の花まつり千僧法要が「慈悲の実践 世界平和の祈り」をテーマに開催されました。この法要は、全国の各地域・各宗派から多くの僧侶が参集し仏法興隆・世界平和を願い昭和四十三年四月二十六日より毎年この日に開催されています。

私はこの度初めて花まつり千僧法要に参加させていただきました。東大寺には以前度だけ参拝させていただいたことがありましたが、今回、法要の式衆としてゆつくりと大仏殿の中を見物させていただき、建物の構造や大仏様の迫力に前回参拝した時以上の感動を覚えました。当日はあいにくの雨でしたが、五百名ほどの僧侶が参集し、各宗派の様々な衣やお経・声明を見聞することができ、私にとってこの上ない自己研鑽の場となりました。また、大般若転読の際に使用する『大般若波羅蜜多經』六百巻は大分県在住の和泉徹氏が約三十年

かけてお一人で書写したもので、今後修理や新調できないような大変貴重な経巻を手にとり転読するという経験をさせていただきました。私たち真言宗豊山派からは、声明、雅楽、そして千響のメンバーの方々による迫力ある演奏がありました。東大寺の広い大仏殿に響く声明、そして太鼓や雅楽の音色は大変美しく、心に染みるような心地がしました。

今回このような大きな法要の一員として参加出来たことは私にとって大変素晴らしい経験となりました。今後、このような機会があった際は、積極的に参加していきたいと思えます。また、豊山派仏教青年会の事務局員として、今年行われる六十周年の事業が、今回の千僧法要のように無事に成満できるよう全力でサポートしていきたいと思えます。大変貴重な経験を積ませていただいた全日本仏教青年会・諸関係の皆様には深く感謝申し上げます。



雲外蒼天

六十年からの飛躍
平成二十九年十一月十二日(日・友引)・十三日(月・先負)

ご挨拶



真言宗豊山派仏教青年会
会長 木村 真弘

真言宗豊山派仏教青年会は、本年で創立六十周年を迎えます。このような節目の年を迎える事ができましたのは、常日頃より私どもの活躍をあたたく見守ってくださいます宗派諸大徳、歴代会長、執行部各位の皆様のおかげと深く御礼申し上げます。また、会員の皆様とは、良き出会いと縁をいただき、重ね重ねありがたみを感じる次第でございます。

この度、創立六十周年記念事業の一環として、総本山長谷寺への総登嶺を実施することになりました。

初瀬山の麓から中腹にかけて伽藍が広がる真言宗豊山派の総本山長谷寺は、徳道上人が十一観世音菩薩像をご本尊として建立したことに始まります。豊臣秀長公に請われ、専修僧正が入山すると、その学風を慕って全国から学僧が集まり、長谷寺は、豊山教学の学山として再興され、大いに発展したことは、皆様、すでにご承知の通りと存じます。これまで真言宗豊山派仏教青年会では、実践的な活動を通して、会員同士の交友を深め、切磋琢磨すること多くの研鑽を積んで参りましたが、我々青年僧侶にとっても信仰の原点となる初瀬の地で、その伝統と歴史を再認識し、会員一同、これからのさらなる精進を願い、御本尊十一面観世音菩薩様にご報告と感謝の念を捧げたいと存じます。

今後ともより一層のご指導とご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

合掌

ご挨拶



真言宗豊山派仏教青年会
創立六十周年記念結集総本山長谷寺大会
実行委員長 喜田 智静

この度、真言宗豊山派仏教青年会六十周年記念長谷寺結集総登嶺にあたり、実行委員長という大任を頂きました。

「雲外蒼天六十年からの飛躍」をテーマにいたしまして、記念すべきこの年を祝うべく、実行委員一同様々な準備をしてまいりました。

この度の結集につきましては、総本山長谷寺を会場として使わせていただくこととなり、田代弘興猊下をはじめ、御本山の方々には深く感謝申し上げます。私たちが青年僧侶にとりまして、御本山とは青年時代を過ごした場所であり、人生の節目には必ず訪れる場所でもございます。また、子育て世代でもある私たちにとりましては、次世代を担う子どもたちを導く場所でもあります。

これまでの豊山仏青を支えてくださった諸先輩方、そしてこれからの豊山仏青を引き継いでくれる子どもたちと同じ感動を共有できる場所は、御本山だけではないかと思っております。

これまでの歴史を振り返り、そして未来の豊山仏青のために、たくさんの方々にご参加いただきたく存じます。

輝きあふれる結集となりますようにご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

合掌

春日大社と長谷寺の繋がり

古のころ、わが国では「本地垂迹説」という一つの思想体系によって、日本古来の天地の神々と大陸より伝来してきた仏の教えが習合し、ともに共存する歴史を歩んでまいりました。

時に古来の神々が「権現」と称され「仏の化身」として信仰を集め、さらに「諸天善神」として仏教の守り神となりました。また各地寺院の御本尊様と神社の御祭神様が同一視され、お互いに衆生を救うすがたとなって大切にお祀りされてきたのです。

同様に、総本山長谷寺におきましては、御本尊十一面観世音菩薩様の両脇侍である「雨宝童子」様は、伊勢神宮の御祭神「天照大御神」様、「難陀龍王」



様は「春日大社春日明神」様のご化身として、永く崇敬の念を集めてまいりました。

今回の六十周年という節目に際し、御縁ある春日大社様を参拝させて頂くことは、総本山長谷寺のルーツを辿る貴重な経験になることでしょうか。

世界に目を向ければ、偏執で排他的な風潮が蔓延し、それに伴う戦火やテロリズムの脅威が止まない混沌とした時代です。

そのような今だからこそ、先人が培われてきた「互いを尊重し、受け入れる」という寛容な精神を受け継ぎ、次代へ紡ぎ続けましょう。



日程表

11月12日(日)友引

- 十二時三十分 受付(十二時十五分まで)
※総本山長谷寺 臨時入山受付にて
- 十三時三十分 記念法要 ※観音堂にて
- 十四時十分 観音堂内拝
- 十五時 諸堂参拝 移動
- 十七時四十五分 懇親会 ※大講堂にて
- 会場：奈良ロイヤルホテル

11月13日(月)先負

- 八時三十分 ホテルロビーに集合
バスにて春日大社へ移動
- 九時 春日大社参拝
参拝後閉会式
※春日大社様にて
- 十一時十五分 解散予定